

緩和ケア

科目責任者 山口 重 樹

学年・学期 4 学年・前期

I. 前 文

緩和ケアとは、がん患者などの苦痛軽減を目的とする治療と、さらに患者の精神やスピリチュアルな問題などのケアを行うもので、医療従事者、ソーシャルワーカー、宗教家、ボランティアなど、多くの人々がチームを編制して患者や家族をサポートしていく医療である。

本科目では以下の点に注して学習すること。

1. 緩和ケアの概論
2. がん患者の痛みの評価と治療
3. がん患者の身体的ケア（痛み以外）
4. 緩和ケアと放射線治療
5. がん患者の心のケア（精神腫瘍学）
6. 緩和ケアの実際（緩和ケア病棟）

II. 担当教員

教 授 江 島 泰 生 獨協医科大学医学部放射線医学
准教授 白 川 賢 宗 獨協医科大学医学部麻酔科
部 長 岡 本 猛 足利赤十字病院 緩和ケア内科
部 長 石 川 和 由 柴病院 訪問診療部
部 長 松 本 禎 久 がん研有明病院 緩和治療科
医 長 佐 伯 吉 規 がん研有明病院 腫瘍精神科

III. 一般学習目標

・がん療養中の患者が直面する様々な苦痛（身体的、精神的、社会的、スピリチュアル）およびその治療、ケアについて総合的に講義する。

IV. 学修の到達目標

- 1) がん医療における患者の様々な苦痛について考える
- 2) 医学生として「自己の死」と「他者の死」を熟考する
- 3) 緩和ケアが対象となる疾患を理解する
- 4) 緩和ケアの実際を理解する
- 5) アドバンスケアプランニングについて理解する
- 6) 緩和ケアにおける放射線治療の意義と実際を理解する

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。))

2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション

6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	4	17	金	6	がん患者の心のケア	佐 伯 吉 規	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
2		20	月	5	がん患者の身体的ケア（痛み以外）	石 川 和 由	1
3		20	月	6	緩和ケアの概論	白 川 賢 宗	1
4		24	金	1	緩和ケアの実際（緩和ケア病棟）	岡 本 猛	1
5		24	金	2	がん患者の痛みの評価と治療	松 本 禎 久	1
6		27	月	7	緩和ケアと放射線治療	江 島 泰 生	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

以下のとおり成績評価する。（）内は評価の割合。

試験成績（60%）出席（20%）、態度（20%）を加味して総合評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

- 1) 日本医師会提供 <http://www.med.or.jp/people/cancer/000005.html>
- 2) こんなとき、どうする？「がん」といわれたら（PDF）
- 3) がん性疼痛治療のエッセンス 2008年版（PDF）
- 4) がん緩和ケアガイドブック 2008年版（PDF）
- 5) 症例で身につくがん疼痛治療薬（羊土社）
- 6) がん突出痛のマネジメント（メディカルレビュー社）
- 7) オピオイド乱用・依存を回避するために（真興交易）
- 8) 物語で学ぶ 緩和ケア（へるす出版）

VIII. 質問への対応方法

問い合わせ先：臨床棟9階麻酔科学講座研究室 月～金曜日 9：00～16：00（要：秘書を介したアポイントメント）

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養，利他の精神，医師に求められる品格を身につけ，豊かな人間性を育み，他の医療者と協調して，多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び，情報・科学技術を活用して，生涯にわたって自ら問題を発見し，解決することができる	○
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と，その中核を担う意味を理解できる	◎
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し，課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み，医学・医療の進歩に貢献することができる	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業試験や国家試験に出題された緩和ケアに関する問題，緩和ケアの定期試験の問題を必要に応じて解説する。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（120分）：各種教科書・参考書を用いて緩和ケアに必要な知識について学んでおくこと。

事後学習（60分）：事後学習として各授業で配布されたレジюмеをもとに，内容をまとめて質問に解答できるようにしておくこと

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊参照のこと。なお，シラバス別冊に記載がない場合，要点を確認しておくこと。